

各國人ト對等ノ待遇ヲナスコトニ努ムヘキ旨ヲ開陳セリ

十一月一日西園寺總理大臣ハ後樂園ニ於ケル陸軍大臣主催「タフト」長官歡迎午餐會ノ際桑港問題及移民問題ニ付「タフト」長官ニ對シ帝國政府ハ最モ互讓のナル精神ヲ以テ事務局ヲ處理スルニ躊躇セサルヘシ然レトモ日本ハ他ノ列強ト絶對的對等ノ基礎ニ於ケル國民トシテノ其威嚴ト兩立セサル讓歩ヲ要スルカ如キ取極ニハ絶對ニ同意スルコト能ハサルヘキコトヲ明カニ了得セラレンコトヲ希望スル旨ヲ說述シタルニ「タフト」長官ハ之ニ對シ本問題ニ付テハ已ニ林伯爵ト意見ノ交換ヲ爲シ日本政府ノ意思ハ充分了得セル處ナル旨ヲ答ヘタリ

第二節 一般的日米協約締結問題

第一、一般的協約締結ニ關スル青木大使ト「ルーズヴェルト」

大統領トノ談合

一、日米關係ニ關スル青木大使ノ觀察

一九〇六年十月勃發シタル桑港學童問題以後約一ケ年ニ互ル日米兩國關係ニ關シ在米青木大使ハ大要次ノ如キ觀察ヲ下セリ

(一) 從來日米兩國ノ親善友好關係ヲ維持スルニ於テ何等困難ヲ感セザリシハ未タ其間ニ重大ナル利害ノ接觸又ハ衝突ナカリシニ依ル然ルニ米國ノ國際生活ニ一新紀元ヲ劃シタル米西戰爭ノ結果「フィリッピン」群島其所有ニ歸シタル以來茲ニ彼我利害ノ衝突ノ一因ヲ起シ又近クハ兩國間經濟通商關係著シク其重要性ヲ増加シ其間經濟的競爭漸ク激シカラントスルモノアルニ於テ彼我利害ノ分割益々顯然タルニ到レリ而テ此大勢ハ日露戰爭ニ依リ一頓挫ヲ來シタルノ觀アリシモ戰後日本ノ勢力増大シ四圍ヲ壓スルノ勢力アリタル爲日本ハ其聲明セル門戶開放機會均等主義ヲ確守セントスルノ誠意ヲ有セストノ論漸ク世界ニ傳ハリ米國內ニ於テモ之ヲ憂フル者アリタルニ際シ不幸ニシテ桑港學童問題其他ノ排日事件續發シ輕躁浮薄ナル黃色紙ハ盛ニ兩國民ノ間ニ疑惑ト敵愾ノ念ヲ挑發シタルヲ以テ米國ノ人心ハ茲ニ日米兩國關係ノ前途ヲ悲觀スルニ到リ夫ノ米國艦隊太平洋回航問題ニ對シ此ハ大統領ノ日本ニ對スル示威運動ナリトノ論盛ニ起リ特ニ最近米國海軍部内ノ一部ニ起レル米國ノ假想敵國ハ日本ナリトノ思想世間ニ傳ハルニ於テ米國輿論ハ益々日本ヨリ乖離セントスルノ傾向ヲ呈セリ

(二) 加之一九〇七年制定米國移民法第二條ノ規定ニ基ク大統領行政命令ノ公布ニヨリ日本移民問題ノ解決ニ一段落ヲ告ケタルニ拘ラス右行政命令ハ其庶幾シタル日本移民制限ノ目的ヲ達スル

ニ到ラス爲ニ日本移民排斥論盛ニ起ラムトスルノ傾向アリ特ニ最近英領加奈陀晚香坡ニ於テ發生シタル日本移民排斥暴行事件以來日本移民排斥ノ手段ニ出ツルハ米國利益ノ擁護上已ムヲ得サル所ナルヲ日本ニ於テモ了解スヘシトノ感想米國人心ヲ支配スルニ到リ日本人排斥運動ハ益々其勢ヲ昂メツツアリ而テ大統領選舉ヲ一九〇八年ニ迎フル米國政治家ハ其黨路上勞働者ノ要求ニ應セサルヘカラサル勢ナルヲ以テ或ハ移民問題ノ現狀維持サヘモ困難ナラントスル形勢ヲ生スルニ到レリ

二、青木大使ト「ルーズヴェルト」トノ會談

仍テ在米青木大使ハ此兩國民間ニ蟠レル誤解ト不安トノ念ヲ排除セシムルニアラサレハ日米兩國關係ハ危機ニ頻スルニ到ラストモ極メテ不快ナル狀態ヲ維持シ移民問題ノ如キ案件ノ解決上容易ナラサル障害トナルヲ慮リ此暗雲ヲ一掃スルノ必要ヲ痛感スルニ到リ若シ兩國政府ニ於テ何等隔意ト疑惑トノ存セサル大局ノ問題例之太平洋ニ於ケル兩國領土及利益ノ相互の尊重及支那ニ於ケル門戶開放機會均等主義ノ如キ若干問題ニ關スル兩國ノ立場ノ一致セルコトヲ表明シ世界ノ誤解ヲ一掃スルニ足ルヘキ宣言若ハ協約ヲ締結スルコトヲ得ハ米國人ノ間ニ生シタル不安ト焦躁トノ情念ヲ排除スルヲ得ヘク其後ニ於テ徐々ニ移民問題解決ノ途ヲ求ムヘキナリト考ヘタリ

然レトモ大統領「ルーズヴェルト」ニ於テ此形勢ニ對シ如何ナル所見ヲ有スルヤヲ知ルノ必要アリタルヲ以テ青木大使ハ大統領ニ親近セル信賴スヘキ局外者ヲシテ夫トナク大統領ノ胸底ヲ探リタルニ大統領ニ於テモ青木大使ト同一ノ感想ヲ抱懷シ是非青木大使ト會見シ全然個人ノ資格ニ於テ充分意見ノ交換ヲ爲サントノ意ヲ洩シタル由ニテ一九〇七年十月二十五日同大使ヲ白聖館ニ於テ午餐ニ招キ食後別室ニ於テ私的會談ヲ試ミタリ

大統領ハ日米關係ニ關シ米國民ノ間ニ生シタル疑懼ト不安トノ念ハ今日之ヲ芟除スルニ非サレハ當ニ移民問題等ノ取扱上困難ヲ來スノミナラス遂ニハ制スヘカラサル惡感情ヲ醸成センコトヲ憂慮セララルヲ以テ此形勢ヲ展開スヘキ考案ニ付全然一私人トシテ隔意ナキ所見ヲ交換シタシト述ヘタルニ對シ青木大使ハ喜テ私見ヲ披瀝スヘキモ之ハ日本政府ノ訓令ニ基クモノニアラス又何等政府ノ意向ヲ反映スルモノニアラサルコトヲ前置シタル後此際兩國友好親善ノ意思ヲ明確ニ且嚴肅ナル形式ノ下ニ宣明スルトキハ刻下ノ必要ニ應スルコトヲ得ヘシ而シテ其内容トシテ第一ニ兩國カ太平洋ノ排他的支配ヲ確立セントシツツアリトノ謬想ヲ排除センカ爲此宣言中ニ太平洋「通商上ニ於ケル國際公道」ナリトシテ引照スルハ機宜ニ適ス又兩國ハ相互ニ他方ノ領土ニ對シ侵略的意思ヲ有セサルハ明カナルヲ以テ領土權ノ相互の尊重竝ニ太平洋ニ於ケル現存秩序ノ維持

ヲ定ムルハ困難ナラサルヘシ第二ニ支那ニ於ケル領土保全竝ニ門戸開放主義ヲ同宣言中ニ包含セシムルコトヲ適當トスト述ヘタリ大統領ハ同大使ノ所見ニ全然賛同ノ意ヲ表シ布哇「フィリッピン」群島、臺灣ノ名ヲ協約又ハ宣言中ニ舉ゲムコトヲ希望シ又右會談ノ内容ヲ日本政府ニ電報セムコトヲ求メ同年十二月米國議會開會前迄ニ少クトモ公文ノ交換ニヨリ何等カ諒解ヲ取極メ置クノ必要アリト力説シタル趣ニテ青木大使ヨリ本件會商ニ對スル帝國政府ノ意嚮竝ニ同大使ノ應酬振ニ關シ請訓スル所アリタリ右會談中大統領ハ移民問題ニ言及シ晚香坡事件ノ例ヲ舉ゲ假ニ日米間ニ協約成立スルコトアリトスルモ之ニヨリテ勞働者間ノ鬭爭ニヨリ惹起セラルヘキ事態ヲ防止スルコトヲ得サルヘシ太平洋沿岸ニ於ケル問題ハ幸ニシテ單ニ勞働者問題タルノ域ヲ脱セスシテ未タ人種の僻見タルノ性質ヲ帶フルニ到ラス然レトモ日本勞働者小商人等ノ移住増加スルニ到ラムカ竟ニ事態ハ重大トナリ議會ノ立法行爲ヲ見ルニ到ルヘシト痛言シ青木大使ハ若シ差別待遇ヲ定ムル立法ヲ見ルニ到ラムカ兩國ノ輿論刺戟セラレ勞働問題ヨリモ更ニ重大ナル事態ヲ來スニ到ルヘキコトヲ告ケ日本ニ於テ誠實ニ曩ニ發布セラレタル大統領行政命令ノ實效ヲ齎ス爲米國ト協力シツツアル事實ヲ指摘セリ

尙在米大使ハ宣言ノ章句ニ關シテハ大統領ニ對シ言及スルコトヲ避ケタルモ同大使ノ考案ハ第一

條トシテ

Each of the two powers, recognizing that they are in a peculiar degree interested politically as well as commercially and industrially in the maintenance of the existing order of things on the Pacific Ocean which constitutes an international highway of commerce, records its intention to respect the rights of the other on the territories bordering on that Ocean and the waters adjacent thereto.

ト定メ第二條トシテ一九〇七年七月三十日調印日露協約第二條ヲ採用スルニアリタリ而シテ協約第二條次ノ如シ

Les deux Hautes Parties Contractantes reconnaissent l'indépendance et l'intégrité territoriale de l'Empire de Chine et le principe de l'opportunité égale pour ce qui concerne le commerce et l'industrie de toutes les nations dans cet Empire, et s'engagent à soutenir et à défendre le maintien du statu quo et le respect de ce principe par tous les moyens pacifiques à leur portée.

第二、協約締結問題ニ對スル帝國政府ノ見解

一、青木大使ニ對スル帝國政府ノ回訓

帝國政府ニ於テハ日米關係ニ關スル外間ノ不安ノ念ヲ一掃スルヲ欲スルノ念強シト雖モ從來兩國間ニ國際紛爭ノ因トナルヘキ何等意見ノ扞格ナキニ鑑ミ之ニ關シ公式ニ協約ヲ締結スルノ必要ヲ

認メサルノミナラス一切ノ疑惑ノ原因ハ畢竟移民問題ニ歸スルヲ以テ本問題ニ觸レシテ協約ヲ締結スルコトアルモ兩國民ノ間ノ信認ヲ増スコトナク却テ一般ノ失望ヲ招致スルコトナルヘク殊ニ當時移民問題ハ一般輿論ニ於テ不當ニ重大視セラレ居ル傾アルニ顧ミ其決定的解決ヲ企圖スルハ當ニ其實績ヲ舉クルコト困難ナルノミナラス甚タ不得策ニシテ更ニ危險ナリト確信シ從テ暫時一九〇七年三月公布ノ大統領令實施ノ效果ヲ見ルヲ最賢明ナル策ナリト信スルト共ニ帝國政府ニ於テモ米國大陸行日本勞働者ノ渡航ヲ嚴重制限スルノ政策ヲ維持スルノ方針ニ出テ居リタルヲ以テ十一月二日在米青木大使ニ回訓シ大統領ニ對シ右政府ノ所見ヲ開陳シ更ニ米國議會ノ輕躁ナル行爲ニヨリ招致セラルヘキ事態ヲ避クル爲盡力セラレムコトヲ確信スル旨附加セシムルト共ニ林大臣ヨリ在本邦米國大使ニモ同趣旨ヲ内話セリ(附屬書第十六號)

十一月四日青木大使ハ大統領ニ面謁シ右日本政府ノ立場ヲ縷述シタルニ大統領ハ日本政府ノ所見カ大統領及青木大使ノ見ル所ト一致セサルハ遺憾トスルモ已ムヲ得サル所ナリト語リ議會ノ行動阻止ニ關スル日本政府ノ希望ニ關シテハ自分ハ當ニ日本ノ友人タルノミナラス其讚美者ナリト雖モ注意スヘキハ米國ニ於ケル輿論ノ歸趨ニシテ議會ハ竟ニ輿論ヲ反映セサルヲ得サルナリト述ヘタリ

二、移民問題ノ現狀維持ニ關スル青木大使ノ稟請

在米青木大使ハ當時米國國內ノ對日感情惡化シ米國人ハ戰勝ノ結果日本ハ傲慢トナリ他國ノ感情及利益ヲ無視スルニ到レルカ故ニ米國ノ威力ヲ示スノ要アリト考フルニ到レルニ顧ミ此情勢ノ下ニ於テハ移民問題ニ關シ現狀ヲ維持スルコト困難ナルヲ以テ此際兩國ノ親交ヲ確認スルノ何等カノ手段ヲ執ラサレハ竟ニ大統領ノ好意ニ依ルモ移民問題ニ關スル議會ノ性急ナル行動ヲ阻止スルコトヲ得サルニ到ルヘク本件協商ノ主意ハ實ニ刻下ノ事態ヲ日本ノ爲ニ有利ニ展開セシメムトスルモノニシテ其上ニテ移民問題ニ關スル現狀ヲ維持スルコトヲ得ヘキコト等ノ理由ニ依リ本件ニ對スル帝國政府ノ立場ニ關シ更ニ稟請セリ

三、帝國政府ノ回訓

之ニ對シ政府ニ於テハ日本カ戰後傍若無人ノ行動ヲ爲シ米國ヲシテ其威力ヲ示スノ必要ヲ感セシムルニ到リタルト云フカ如キハ理由ナキ憶說ニシテ無稽ノ誤解ナリ惟フニ米國ニ於ケル排日感情ハ「ハースト」系新聞紙ノ煽動ニ基ク一時ノ誤解ナルカ然ラサレハ一層根據アル移民問題ノ結果ナルヘシ若シ前者ナルニ於テハ之カ爲ニ協約ヲ締結スルカ如キハ極メテ不穩當ニシテ又後者ナルニ於テハ基本問題タル移民問題ヲ解決スルコトナクシテ協商ヲ爲スモ何等利益アルヲ見ストノ見

解ヲ抱持シ從テ青木大使ニ對シ同大使ノ建言ヲ採擇スルコトヲ得サルヲ以テ本件ハ全然放棄セラ
ルヘキ旨回訓セリ然ルニ在米大使ハ然ラハ政府ニ於テハ此基本問題ヲ如何ニシテ解決セムトノ意
嚮ナリヤト反問シ來リタルニ對シ政府ハ此際基本問題ノ満足ナル解決ヲ見ルコトハ不可能ナルカ
故ニ日米協約ヲ結フノ時機ニアラストノ所見ヲ有ス尤モ差當リ本問題ヲ如何ニ處理スヘキヤノ問
題ニ付テハ既ニ林外務大臣ト在本邦米國大使「オブライエン」トノ間ニ移民制限ニ關シ交渉中ニ
シテ其方法ハ條約ノ形式ニ依ラス日本政府ニ於テ更ニ嚴重ナル自制的制限ヲ加フルコトスルノ
外ナシトノ趣旨ヲ以テ十一月二十九日在米大使ニ回訓セリ

第三節 紳士協約ノ成立

第一、移民渡航制限ニ關スル米國政府ノ提唱

一、青木大使ト國務長官「ルート」ノ會見

曩ニ一九〇七年九月二十八日在米青木大使大統領「ルーズヴェルト」ニ面謁ノ節大統領ハ晚香坡事
件ニ言及シ勞働者間ノ鬭爭ノ繼續スル間斯ノ如キ不幸ナル事件ヲ阻止スルコトハ困難ナリトシ日
米兩國國民ノ交通ハ教育アル階級ニノミ限局スルノ賢明ナルコトヲ熱心ニ説ク所アリタルカ其後十

月二十六日在米青木大使トノ會見ニ於テ「ルート」國務長官ハ一九〇七年米國移民法第二條ニ基
ク同年三月十四日附大統領行政命令ノ執行ニ依リ日本勞働者制限問題ノ解決ニ一段落ヲ告クルモ
ノト期待セラレタルニ拘ラス其後約半ケ年ニ互ル該行政命令實施ノ結果ハ其豫期ニ反シ却テ日本
勞働者ノ渡航増加シ來リタル爲太平洋ノ沿岸地方ニ於ケル勞働組合ハ大統領行政命令ハ到底日本
勞働者ノ入國ヲ防止シ得ルモノニアラス從テ更ニ嚴重ナル移民制限法ノ制定ヲ爲ササルヘカラス
ト高唱シ一方ニ於テ全國ニ於ケル勞働組合ニ向ツテ其協力ヲ促スト共ニ他方ニ於テ米國議會議員
ニ運動シタル結果排日議員ハ大統領及議會ニ於ケル領袖ニ其制定ノ必要ヲ強調スルニ到リ大統領
及國務長官ニ於テモ現實日本勞働者増加ノ事實アリテ轉航禁止令ノ實效ヲ伴ハサルコトヲ反證セ
ルニ顧ミ斷然右議員等ノ主張ヲ拒否スルコトヲ得サル事情トナリ從テ若シ帝國政府ニ於テ現狀ヲ
洞察シ自ラ進ンテ任意ニ更ニ有效ナル勞働者ノ渡航制限ヲ斷行シ米國政府ニ對シ日本勞働者制限
法制定ノ不必要ニシテ且不得策ナルコトヲ明確ナラシムルニ足ルヘキ理由ヲ供セラルルニアラサ
レハ大勢ノ赴ク所或ハ悲ムヘキ排斥法ノ成立ヲ見ルニ到ルヘキヲ虞ルトテ帝國政府ニ於テ更ニ嚴
重ナル勞働者制限ヲ勵行スルノ緊要ナルコトヲ懇談セリ在米青木大使ハ之ニ對シ帝國政府ハ誠意
ヲ以テ米國大陸行日本勞働者ヲ嚴重ニ制限スルノ方針ヲ實行シツツアルノミナラス墨國行勞働者